

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 熊野町立熊野中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒731-4214

広島県安芸郡熊野町中溝六丁目1番1号

E-mail kumanojh@piano.ocn.ne.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 122名 女子 128名 合計 250名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域文化の伝承と創造」をテーマに毎年活動を行っているが、本年度はさらに「エネルギー環境問題を正しく捉え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成」を新たな活動テーマに加えた。ESDを、持続可能な地域・社会の構築について考える教育と捉え、ESDの実践を通して、教科での学習を基に持続可能な社会を実現するために自分たちに何ができるか主体的に判断・行動する力の育成を目標とした。

具体的には総合的な学習の時間、社会科、理科、技術科を柱に、①組曲や職場体験、筆づくりなど地域の伝統文化・産業を体験する活動 ②地域の今後の発展に係わる活動、③持続可能な社会の形成に関わるエネルギー・環境教育を行った。

① 地域の伝統文化・産業を体験する活動

総合的な学習の時間を使って「地域文化の伝承と創造」をテーマにして、毎年、組曲「筆の都くまの」の製作に全校で取り組んでいる。これは、町内に現存する「筆まつり唄」や「筆踊り」を発展させ、和太鼓、篠笛等の和楽器を取り入れて創作したもので、約30分間、全校生徒により発表するものである。本年度は第15代目の発表が実現できた。昨年度から書道部による大書も取り入れている。

毎年、学校の体育祭や文化祭に加え、地域の行事である「筆まつり」のふれあいステージや「町民体育大会」のアトラクションで披露している。

この取組を進めるにあたって、地域の多くの方々から指導・助言等、多くの支援をいただいている。筆踊りの指導にあたっては、振り付けの意味や踊りに込めた思いも踏まえながら、町内の女性会の方々から指導をいただいている。体育大会で組曲の前に、地域に伝わる「彼岸船」の紹介をするが、その彼岸船の飾り付けや引っ張り方など、彼岸船保存会の方の指導を受けている。体育祭で準備した彼岸船は「筆まつり」で町の大きな彼岸船とともに町内をねり歩き、町民にアピールしている。

各学年ごとでも熊野町の伝統産業である筆づくりに関わる活動を行う。1学年で熊野筆協同組合から伝統工芸士の方を招いて筆づくり体験をし、2学年で筆づくりの事業所で職場体験学習を実施している。

② 地域の発展に係わる教育

3年生の公民的分野の地方自治の授業を中心に熊野町議会運営事務局や熊野町役場と連携して、「熊野町をより住みやすい町にするための改善計画」を考え、町議員や熊野町長に自分たちの意見を発表した。

③ 持続可能な社会の形成に関わるエネルギー・環境教育

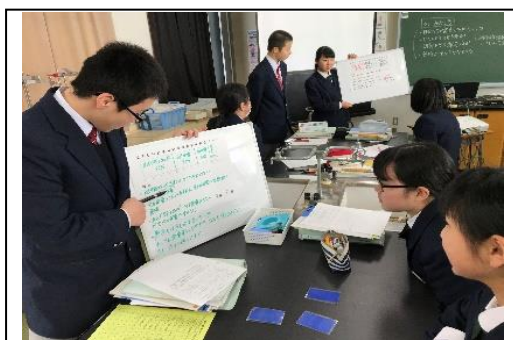
本校は昨年度からエネルギー教育モデル校に指定されている。本年度は理科や社会科の授業で持続可能な社会を形成するために、日本にとって望ましい発電方法を根拠をあげて議論したり、温暖化対策のために自分に何が出来るか行動宣言を作成して校内掲示を行った。



① 組曲（大書の披露）



② 熊野町長へのプレゼン（社会科）



③ 望ましい発電方法提案（理科）



③ 温暖化対策行動宣言作成（社会科）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

広報くまの, 日本のエネルギー2018, わたしたちのくらしやエネルギー, 高レベル放射性廃棄物について考えよう

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

〔本活動の指導計画〕 学校行事や地域イベントでの組曲披露は全学年参加
＜第1学年＞
○総合的な学習の時間「地域や自分を知ろう」
 伝統工芸士による筆作り体験（7月）筆の里工房見学（10月）
＜第2学年＞
○総合的な学習の時間「地域や働く人に学ぼう」
 職業講話（6月）職場体験学習（7月）熊野高校出前授業（3月）
＜第3学年＞
○総合的な学習の時間「地域に貢献しよう」
 組曲「筆の都くまの」（4月～11月）
○社会科 「町議会との意見交流会参加」「熊野町改善計画プレゼン」
 「持続可能な社会の実現～温暖化対策行動宣言を作成しよう」
○理科 「発電の仕組み」「今後の日本の望ましい発電割合」

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

組曲の指導では全教職員が篠笛・太鼓・踊りのいずれかのパートに所属し、全員で指導を行っている。エネルギー・環境教育については、理科・社会科・技術科の教員が中心となって、教科間で授業内容の情報交換や資料・ワークシートの共有を行って、授業を進めた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

組曲は町内のイベントでの披露が定着し、毎年楽しみにして下さっている地域の方もおられ、好評を得ている。平成28年度から始まった町議会議員の方との懇談や熊野町長へのプレゼンテーションも評価が高く、本年度も継続できた。エネルギー・環境教育に関する授業を担当した教員の意識は高まったが、他教科の教員の意識に温度差がある。生徒自身がユネスコスクールに加盟しているという意識が薄く、保護者や地域に向けての発信がまだまだ不十分であった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

筆まつり，町民体育大会，町民文化祭等といった地域行事で全校での組曲，書道部の大書，有志による筆踊りなどに積極的に参加することで，地域の伝統・文化・産業の尊さと誇りを持ち，地域への貢献方法について考えることができるようになった。そのことが熊野町議会議員との「魅力ある“まち”づくり」についての協議や，町長で前授業での「熊野町改善計画」のプレゼンにつながった。生徒たちは熊野町の課題と，周辺の市町や他県の行政的な事業との成果について調べ，熊野町でも実現してほしい政策を提案することで，熊野町がさらに持続可能な発展ができるように主体的に考えられるようになった。

教科を横断してエネルギー環境教育を推進したことによって，生徒の意欲や理解が向上し，自分たちが生活の中で何ができるか考え，行動に移す生徒が増加した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

太鼓本舗かぶら屋 熊野筆事業協同組合 熊野町役場
熊野町教育委員会 熊野町議会事務局 地域の太鼓指導者

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

町内の小・中学校すべてがユネスコスクールに加盟しているが，本年度は連携して，活動を行うまでには至らなかった。次年度は，各校がユネスコスクールとしてどのような活動を行っているか，実践交流が図れればと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

生徒たちが、地域の一員としての意識を高め、地域の人々の思いや伝統・文化・産業に対する尊さや誇りをもつことができている。また、より地域を発展させるために、どうすればよいか考え、意見を発信することができる生徒が増加した。

主体的に取り組み、問題や課題を自ら見つけ、「自分に何ができるか」生活の中で見直し、解決する力を付けている。教科での学習と実生活が結びつくことで、生徒の学習意欲と自己肯定感が高まっている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「地域文化の伝承と創造」をテーマに、熊野町の伝統文化である「筆」を題材とした、組曲「筆の都くまの」の第16代目発表に向けて取り組む。

総合的な学習の時間を活用して、課題発見・解決学習の手法を取り入れ、伝統文化の持続的な発展を考えさせていく。

また、社会・理科・技術科の教科を中心として、エネルギー環境教育を推進し、熊野中学校の取組を地域へ発信し、地域とともに持続可能な社会の担い手を育成していく。